

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1970年東京生まれ。県立浦和西高校、日本大学芸術学部映画学科を卒業。大学在学中に第1回「太陽カンツォーネコンクール（ポップス部門）」で優勝し、イタリアフィレンツェを拠点に活動。帰国後3枚のアルバムと自作シングルを発売、全国各地でライブ、コンサートなど精力的に活動中。

昨年、長男を出産し、子どもを育てる最良の地として越谷に住居を移しました。美しさとパワーをまましてさっそうと自転車で登場した加藤さん。さらびやかな舞台の雰囲気とはまた違って、気さくで優しく、ちょっぴりお母さんの顔も見せてくれました。

「カンツォーネ」というと、イタリア民謡？または明るい歌ばかりと思われてしましますが、愛の歌、人生の歌、悲恋や情熱的な恋の歌がたくさんあるんですよ。少女の初恋から、ある時は余命いくばくもない男の最期まで、次々と歌のドラマで演じて、歌っていきます」

カンツォーネとの出会いは、大学の授業の中でした。全く知らない世界の話だったので何とかしなければと、週1回のレッスンを受けることにしたそうです。



そのときの先生が日本のカンツォーネの第一人者である荒井基裕さんでした。メロディーラインをたどり自分の思うように表現するというのが、幼少より学んでいたバイオリンと通じるところがあって、カンツォーネにすっかりはまってしまったという加藤さん。コンクール優勝を機にイタリアへ旅立ちました。

「フィレンツェの共和国広場のメインに老舗のミュージックレストランがあり、6月から野外ライブが行われるのですが、たまたま飛び込んで『夢見る思い』という歌をイタリア語と日本語で歌ったところ拍手喝さいを受けたんです。日本人の観光客も大勢訪れるお店だったので、そこで働きながら毎日歌いました。プレスリーの『この胸のときめきを』という歌を、イタリア語、英語、日本語の3カ国バージョンで歌ったりして、とても楽しかったですね」

大学在学中にライブシンガーとしてデビュー。苦しいのが9割、楽しいのは1割でした。人前で歌って認めてもらえるまで、10年は頑張ろうと考えていました。そして、2000年に出したCDとライブでの評判から、

各地でのコンサートやライブ、ディナーショーに出演するようになりました。

2001年から、地元、埼玉会館でコンサートを毎年開催し、その模様はテレビ埼玉で放映されました。昨年、埼玉スーパーアリーナで行われた「さいたま市成人式」の开幕式で8カ月の身重で歌った加藤さん。今年も9月8日に埼玉会館で、また銀座のヤマハホールでは12月8日に恒例のコンサートがあります。

「自分の体調が悪いより、子どもが病気のときに置いて行かなければならない辛さ、本当に切

ないですね！」と母心をセーブしたいと思いつつ、17年近く歌ってきた一度もステージを休んだことはないという加藤さんは、仕事の依頼があると無理にでも行ってしまうと言います。

「来年の夏、このこしがや能楽堂でのコンサートを夢見ています。ピアノは使わず、琵琶でパーカッション風にして、弦楽器、またはシンセサイザーのサウンドで、幻想的なコンサート。越谷でディナーショーもしたいし、子育て中のお母さんたちが、気軽に母子ともに参加できるようなコンサートも開催できたら：

子連れだとなかなか出かけられないですから」

きれいな川と自然に恵まれ、人もまちなみで優しく、越谷での生活は大満足という加藤さん。その上、銀座まで電車1本の便利さ。

「埼玉にも、フィレンツェがあった」とよく人に話をしますが、越谷のことを知らない人が多いので、もっといろいろな人へのまねを知ってもらいたいと思っています」

まちを愛し、人を愛し、歌を愛す加藤さん、これからも活躍されることでしょう！

感謝の気持ちをお忘れず、アモーレの魂を込めて、精一杯歌っていききたい



カンツォーネ歌手 加藤順子さん

カンツォーネは太陽と大地、生命力そのもの。多くの人に元気になって欲しい！いつもそんな願いを込めて歌っています。とこやかに話す加藤順子さん。6月26日には中央市民会館でコンサートを終えたばかり。カンツォーネとの出会い、歌への情熱、喜び、今後の夢などのお話を趣のあるこしがや能楽堂で伺いました。